

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
言語表現Ⅱ Language expression Ⅱ		2年	後期	木曜日・3時限、4時限、5時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程選択)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
言語表現Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
加藤美智子		非常勤 講師室	授業中に指示します	授業中に指示します
授業の概要				
言語表現Ⅰを踏まえて、より多様な児童文化財を用いて言語の獲得環境を整理し体験することに重点を置く。劇表現が、幼児に対して言語を獲得する上で必要なプロセスであることを実際に学ぶ。				
授業の到達目標				
①児童文化財全般についての理解を深めるとともに、特に平面のパネルシアターや絵本などから移行し立体に移り変わる場合に、幼児がどのような視点で劇表現を見るのかを幼児の視点に立って考えることができるようにする。 ②各自が、人前で児童文化財を使った表現をすることができるようにする。				
授業の方法				
制作と実施を主軸に講義形式とする。各自がそれぞれのテーマに沿って制作活動を行い発表を重ねることで、保育現場を意識した実践の授業とする。各自のまとめや制作した作品は、指定された期日までに教科担当に提出することとする。				
学習の成果				
①言語取得に欠かせない絵本、パネルシアター、エプロンシアター、人形劇を軸とした媒体のそれぞれの特徴を理解し、技術を会得することができる。 ②保育現場において活かすことのできる劇表現を学ぶことができる。 ③人形劇の表現の可能性を模索し、劇が幼児に与える影響を感じ取り、それを学びの内容としてまとめることができる。 ④丸玉人形は制作のみに終始せず、劇表現の基本を適切に体得し、人形劇作品を発表することができる。 ⑤幼児が心から開放されるとき「笑顔が広がる」という体験を、自主的に行動し体得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	劇とこども			
第2回目	封筒人形制作 (デザインと造形)			
第3回目	封筒人形制作 (作品発表)			
第4回目	牛乳パック人形人形の製作①			
第5回目	牛乳パック人形人形の製作②			
第6回目	人形劇製作 (丸玉人形のプランおよびイメージイラストをつくる)			

第7回目	人形劇制作 (丸玉人形のパーツを作る)		
第8回目	人形劇制作 (丸玉人形の全体と細部をつくり、バランスをみる)		
第9回目	人形劇発表① (実際に舞台を使った発表)		
第10回目	人形劇発表② (実際に舞台や効果音を使った発表)		
第11回目	絵本の読み聞かせの実際・分類		
第12回目	絵本の読み聞かせの実際・構成と効果		
第13回目	エプロンシアターの演じ方①		
第14回目	エプロンシアターの演じ方②		
第15回目	絵本・パネルシアター・エプロンシアター・人形劇など表現媒体をつかった発表		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		20%	欠席の場合は必ず届出をし、提出課題をこなすこと。
レポート		30%	各自がまとめたスケッチブックを後期の最後に提出。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容 (態度含む)		40%	実践する力を身に付けていこうとする姿が見られ、積極的に発表活動に臨んでいること。
その他		10%	社会的活動に対して、積極的に行動している。
教科書と参考図書			
授業中に指示します			
履修上の心得・ルール			
授業には、真剣にかつ真面目に臨むこと。無断欠席は認めない。必要なものは必ず準備して授業に臨むこと。作品は必ず提出すること。			